

諏訪小だより

令和6年7月19日
7月特別号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

御礼

校長 齋藤幸之介

特に7月に入ってからの暑さは、猛暑、酷暑と申し上げてもよいほどの厳しいものになりました。休み時間の遊びも中止せざるを得ない場合が生じ、昨年度同様朝の時間に少しでも活動ができれば、とも思いましたが、それも全てを叶えることはできませんでした。数年前までは梅雨時には気温が下がる場合も少なくなかった、とつい愚痴が出てしまいました。

しかし、子供たちは日々元気に登校しました。友達と歩を進めながら楽しく話す姿に救われました。これもひとえに、保護者並びに御家族の皆様が子供たちの健康を整えて学校へ送り出してくださったからこそ、と深く感謝をする次第です。

本年度は、昨年度に比して欠席者の割合が下がりました。私共教職員が願う「一人でも多くの子供たちが学校で活動すること」が少し実現できたかと思っています。

学校に止まらない活動

約4月を振り返ってみたいと思います。

すでにホームページにも掲載した「私の夏のチャレンジ（夏休みの自由研究・自由工作）」でも御紹介をしましたが、本年度は多くの学年が地域に出て様々な活動をしました。以前のような条件は大いに緩和され、子供たちの思いや願いを叶える活動ができるようになってきました。特に、足繁く、という表現がしっくりとくるほど地域の特色を探りに校外に出ていきました。いくつもの公園を巡り、農園にも見学に行き、ゴミを拾いながら地域の環境を考える、とそれぞれの学年がねらいに向かって活動をしました。5年生はエコプラザ多摩の裏手にある「黒川海道」への散策は、近隣の他校も挑戦を試みたとの話を聞いていますが、実際に「近い」という地の利を生かしながら様々な特色を探ろうとする挑戦ができました。

同時に、6年生の「すわっこ市場」は、校内の栽培活動を地域にどのようにいかしていくか、と例年新たな課題に挑戦しています。過去2年間行ったベルブ永山付近での販売の場を、本年度は諏訪

名店街に移して実施するに至りました。「どのように宣伝したら、販売日当日に賑わうか」を考えて話し合い、チラシを配る場所などを決めました。このことを把握した多摩市教育委員会はチラシの印刷を買って出て、さらに本校からは依頼しづらい施設等への調整を行ってくれました。当日はそれこそ酷暑でしたが、時間を制限しながらも何とかやり終えることができました。あるお店の方が、「子供たちのエネルギーはすごい」「久しぶりに名店街が賑わった感じがする」とのお言葉をくださいました。何よりのねぎらい、と感謝をしたいと思います。

「開校30周年」を全員で味わいたい

このように、多くの方々のおかげをもって本校が地域に少し近付くことができたかと捉えています。

夏休み明けからはさらにもう一步踏み込めたら、と思います。そう、それは「開校30周年記念行事」です。運動会も30年を意識しながら活動をしたいと思います。古い、と言われるかもしれませんが、多くが午前で終了するようになった中、午後までのそれこそフルスペックの競技・演技を行いながら体育学習の成果を披露したいと思います。そして、その1か月後に予定されている記念式典には、何らかの形で全校児童が今までの学びを披露する場を得ながら、本校と地域との関わりを捉え、また多摩市の未来のあり方と参画の仕方を少しでも発信できたらと考えています。

これを実現させるためにも、まずは子供たちが登校し、本校での活動を楽しむことが肝要かと思っています。再三申し上げて恐縮ですが、これから始まる夏休みを過ごす子供たちは、きっと厳しい条件下で工夫しながら生活することとなります。これをうまく乗り切り、そして9月から改めて元気な姿で活動することを願って止みません。

最後になりますが、今日までのお力添えに深く感謝するとともに、夏休み明けに心よりお待ち申し上げていることをお伝えいたします。

79年目の終戦記念日を前に

1945年8月15日から数えて今年で79回目の終戦記念日を迎えることとなります。これからはばらくすると、テレビ番組や新聞記事から戦争に関連する内容が多く伝えられることでしょうか。子供たちはどのように捉えていくのでしょうか。

昨年度もお伝えをしたかと思うのですが、夏休み中ということもあって私共はこの時期に直接子供たちに伝えたり考えさせたりすることができません。そこで、少し先んじた形になりますが、お伝えをしたいと思います。

愛子様が感じられる日々の幸せと「修学旅行」

今から7年前の平成22年3月、今上天皇御長女であられる敬宮愛子内親王（としのみやあいこないしんのう）、これからは恐れ多くも愛子様と呼ばせていただきますが、愛子様は学習院女子中等科を御卒業されました。その際、卒業記念文集に「世界の平和を願って」という文章をお寄せになっています。冒頭には愛子様日々お感じになられている幸せが綴られています、このようなお気持ちになられたのは修学旅行でいらした広島がきっかけである、とお書きになられています。

原爆ドームを御見学になって「ここまで悲惨な状態である」と衝撃を受けられたこと、平和記念資料館の様々な展示を「実際に起きたことなのか、と目を疑った」と感じられて平常心で御覧になることがおできにならなかったこと、そして原爆投下による被害に遭われた人々の苦しみや無念さを感じられたことを記していらっしゃいます。これらは、「本当に原爆が落ちた場所を実際に見なければ感じるができない貴重な体験であった」からこそ、とも述べられています。昨年広島で行われた主要七か国首脳会議では各国首脳が、その後すぐにウクライナのゼレンスキー大統領もここを訪れたことは記憶に新しいところでもあります。

愛子様は「平和を願わない人はいない」とおっしゃった後に、世界各地で紛争に苦しむ人々が大勢いることを挙げられ、そして「では、どうやって平和を実現したらよいのだろうか」と問題提起をされています。

子供たちは愛子様の問いにどのように答えるでしょうか。

平和のために求められること

すでに2年をゆうに超えたにもかかわらず、ウクライナからは未だに悲しい報道がなされています。イスラエル・パレスチナ情勢も解決への方向が見られません。その他、いくつもの紛争が世界各地で起こっています。世界に平和が訪れることは本当に難しい、と今更ながらに感じます。

愛子様は、文章のまとめに、平和について以下のように述べられていらっしゃいます。

「「平和」は、人任せにするのではなく、一人ひとりの思いや責任ある行動で築いていくもの」。

このお言葉の難しさを感じるとともに、大切なお教えとして胸に刻みたいと思います。冒頭に述べたように、あの悲惨な戦禍を受けてから79年が経ち、このことを伝えていくことが困難になってきたのかもしれない。しかし、忘れることは決して許されないことでもありましょう。だから、今夏もあの歴史に触れながら、今我が国で生きる一人として今のそして未来の平和を考えたいと思うのですが、いかがでしょうか。

「平和の灯」

かつての教科書に掲載されていた資料に「平和の灯」がありました。御存じの方も多くいらっしゃると思います。やはり広島平和公園に灯されているこの火は核兵器が地球上から姿を消すその日まで燃え続けているのだそうです。

愛子様は最後にこう締めくくられています。

「いつか、そう遠くない将来に、核兵器のない世の中が実現し、「平和の灯」の灯が消されることを心から願っている。」

改めて、子供たちに愛子様が提起された問題を考える時間をもってもらえたら、と願っています。

<参考>

「愛子さま中学ご卒業 卒業記念文集の作文「世界の平和を願って」全文」(2017年、産経新聞)

<https://www.sankei.com/article/20170322-LWNVTS255BM47HUSW5W12BUT3Y/>